

ITで広島の魅力再発見

産学連携実習 意見を交わす

広島工業大
2年 山根千尋



NTTデータ中国（広島市南区）やひろぎんホールディングス（HD、中区）、広島県が連携した産学連携実習がひろぎんHD本社で5日間の日程で開かれた。広島工業大

（佐伯区）をはじめ、県立広島大（南区）広島市立大、広島修道大（いずれも安佐南区）の学生計47人が参加し、IT・デジタルを活用して広島の魅力を再発見するビジネスモデルの構築について意見を交わした。

学生たちは5人前後の8グループに分かれ、アドバイザー役で加わった企業の社員から助言を受けながら地域が抱える課題について討論した。最終日には、グループごとに成果を発表。癒やしや自然体験を通じて自己発見を促すウェアラブル端末の活用や、フリーでしか渡れない島を「海賊の島」に見立てたイベントの企画など、地域ならではの多彩なアイデアが出た。

県立広島大地域創生学部3年田中美羽さん（21）は「意見をまとめるには、違いや共通点を整理し、議論を進めることが大切だと実感した」と振り返った。

地域が抱える課題についてグループの意見をまとめる学生

施工中の建設現場を見学

職場研究 仕事の魅力に触れる



広島工業大

2年 井田愛夏

広島工業大の工学、環境両学部の1、2年生5人が本学が開く「職場研究」に参加した。建設業の砂原組（中区）

本社と当社が施工中の建設現場を見学し、仕事の魅力に触れた。企業訪問で現場に触れることで職業観を養い、将来の進路選択に役立てる狙い。



マンション建設現場の事務所で鍵原所長（右端）から説明を受ける学生

や内装工事の様子を見学し、工事状況などの説明を受けた。現場を監督する鍵原雅樹所長は「安全で快適な住まいを実現するため、日々作業に注力している」とやりがいを話した。

その後、本社に移動し、会社概要などの説明を受け、建設業界について知識を深めた。本学卒業生の社員との座談会もあり、参加者は仕事のやりがいや苦労に思うことなどを質問し、熱心にメモを取っていた。環境学部の女子学生は「会社の雰囲気を感じることができるといい機会になった」と話していた。

訪れたのは西区庚午中で建設中のマンション「アルファステイツ庚午中」の作業現場。建物を支えるための躯体工